令和6年11月1日

令和６年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立海道小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには，学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があり，その上で，家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから，令和６年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について，以下のとおり公表します。

また，調査結果は，学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので，調査結果の分析，指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1　目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し，児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに，各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより，本県児童生徒の学力向上に資する。

2　調査期日

令和6年4月18日（木）

3　調査対象

小学校　第４学年，第５学年（国語，算数，理科，質問調査）

中学校　第２学年　　（国語，社会，数学，理科，英語，質問調査）

4　本校の実施状況

第４学年	国語　４０人	算数　４０人	理科　４０人
第５学年	国語　３７人	算数　３７人	理科　３７人

5　留意事項

(1)　本調査は，対象となる学年，実施教科が限られていることや，必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから，本調査の結果については，児童が身に付けるべき学力の特定の一部分であることに留意することが必要となる。

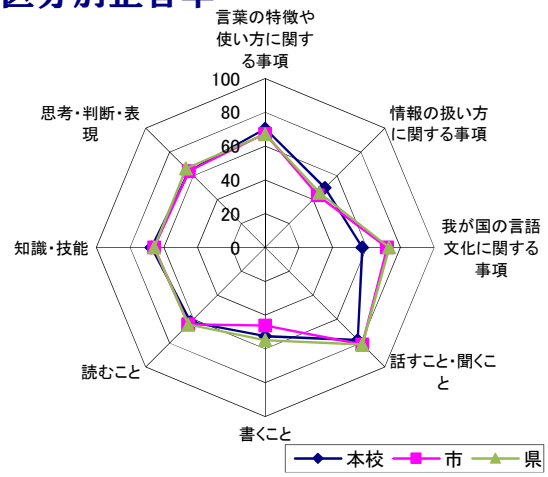
(2)　本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。

(3)　平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため，「本年度の状況」，「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立海道小学校 第４学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方に関する事項	70.3	67.4	67.1
	情報の扱い方に関する事項	50.0	43.8	45.7
	我が国の言語文化に関する事項	57.5	72.1	73.4
	話すこと･聞くこと	77.5	81.2	81.2
	書くこと	52.5	46.2	54.9
	読むこと	62.5	64.3	64.5
観点	知識･技能	67.3	65.7	65.7
	思考･判断･表現	63.8	64.0	66.3



★指導の工夫と改善

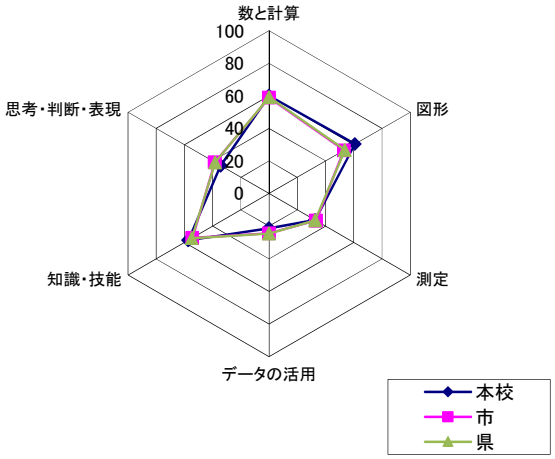
○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分		今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	平均正答率は，市･県の平均より3ポイントほど高い。 ○既習の漢字を正しく読んだり書いたりする問題では，総じて市や県の正答率を上回っている。 ●送り仮名のある漢字の読み方（訓読み）や文の中における主語と述語との関係を捉える問題，反対の意味を持つ言葉を捉える問題の正答率は，市や県より5～10ポイント程低い。	･漢字の学習において，正しい読み書きの習得を図れるように家庭学習や朝の学習で継続的に指導をする。 ･多くの用例や問題文，児童自身が書く文章において，語と語の関係を意識しながら捉えられるようにする。 ･物語文や説明文を読む時には，同意義語や対義語などに触れ，意識付けを図る。
情報の扱い方に関する事項	平均正答率は，市･県の平均より高い。 ○国語辞典の使い方を理解し，使うことができるかをみる問題では，市や県の正答率を上回った。	･国語科に限らず他教科等の調べ学習や日常生活の中でも辞書や辞典を積極的に利用できるようにし，引き続き学習意欲を高めていく。
我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は，市･県の平均より16ポイント程低い。 ●漢字のへんとつくりを正しく組み合わせて既習の漢字をつくる問題では，市や県の正答率を下回った。	･漢字の学習において，漢字のへんやつくりなどから，漢字を調べたり，漢字の読み方を推測したりする活動を多く取り入れ，漢字の構成を理解させる。 ･漢字の特徴を捉えて楽しく練習できるよう，漢字の成り立ちや部首に着目させるなど活動を工夫する。
話すこと・聞くこと	平均正答率は，市･県の平均より4ポイント程低い。 ○司会の話し方の工夫を捉えることができるかどうかをみる問題の正答率は，市や県より4ポイント程高い。 ●話し手が伝えたいことの中心を捉える問題の正答率は，市や県より5ポイント程低い。 ●司会の役割を果たしながら話し合い，参加者の発言を基に，考えをまとめることができるかどうかをみる問題では，市や県より15ポイント程低い。	･教科や学級活動での話合い活動の充実を図り，話したり聞いたりする活動を意図的に取り入れる。 ･友達の意見を聞き，それに対して自分の意見を発表する場面（ペア･グループ･全体など）を多く設定する。 ･話合い活動では，誰もが司会者を経験し，その役割や話合いをまとめる体験ができるようにする。
書くこと	平均正答率は，市の平均より6ポイント程高く，県の平均と同程度である。 ○指定された長さで文章を書く問題の正答率は，市の平均を大きく上回り，県の平均とは同程度であった。 ●問題文の条件に合わせて文章を書いたり，自分の考えや理由を明らかにして文章を書く問題で県の平均を下回った。	･児童にとって興味･関心がわくようなテーマを選んで書く楽しさを味わわせる。 ･2段落構成で書く等，条件に合わせて文章を書くことで，指定された条件で文章を書くことに慣れさせる。 ･日記等，文章を書く場面を多く設定し，書く力の定着を図る。
読むこと	平均正答率は，市･県の平均より2ポイント程低い。 ○物語文を読んで感じたことや分かったことを共有することができるかどうかをみる問題の正答率は，市や県より6ポイント程高い。 ●説明文を読んで，叙述を基に段落の内容を捉えたり，文章の内容を捉えたりする問題の正答率は，市や県より10ポイント程低い。	･積極的に学校図書館を利用し，文章を読む機会を多く設ける。 ･様々な説明文を読み，どの叙述から読み取ったのか明らかにして説明したり，文章の内容を捉えたりすることで，説明文の文章構成を捉えていく学習を多く取り入れる。

宇都宮市立海道小学校 第４学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	60.0	58.9	59.2
	図形	60.8	53.0	53.7
	測定	32.5	33.1	32.6
	データの活用	21.3	24.4	24.6
観点	知識・技能	57.3	54.3	54.7
	思考・判断・表現	34.4	38.5	38.3



★指導の工夫と改善

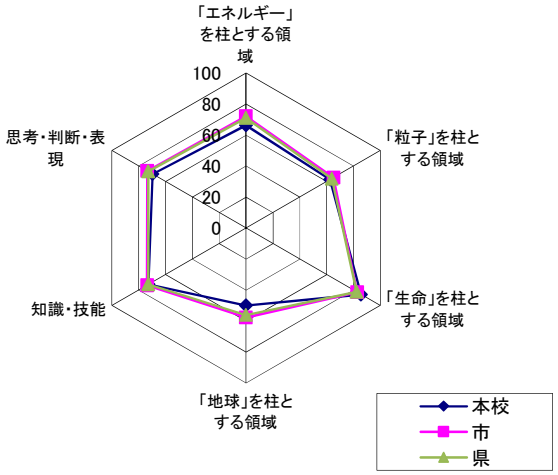
○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は，市・県の平均よりやや高い。 ○大きな数や小数の表し方については，市や県の正答率を上回った。 ●数量の関係について□を使った図を選ぶ問題では，市や県の正答率を10ポイント以上下回った。 ●基礎的な計算問題のほとんどで，市や県の正答率を下回った。	・大きな数や小数，分数，計算等の基礎的な内容について，授業だけでなく，朝の学習や家庭学習の中でも，計算ドリルやAIドリル等を活用して繰り返し練習を行い，学習内容の定着を図る。 ・数量の関係について，理解の段階に応じて具体物や絵，図，テープ図，線分図等を活用し，数の関係性を理解する活動を意図的に取り入れる。
図形	平均正答率は，市・県の平均より高い。 ○円の性質を利用した正三角形の作図や二等辺三角形の性質を理解しているかをみる問題では，市や県の正答率を大きく上回った。 ●半径と直径について理解し，球の性質を利用し長さを求める問題では，市や県の正答率を下回った。	・今後も，コンパスや定規などを使用して作図をする際には，児童一人一人の状況を把握し，個に応じた指導をしながら理解を深められるようにする。 ・具体物の操作活動や，実物投影機や動画などのICTも活用しながら，図形の性質を視覚的に捉えさせ理解できるように指導する。
測定	平均正答率は，市・県の平均とほぼ同じである。 ○はかりの目盛りを読み取る問題では，市や県の正答率を上回った。 ●時間と時刻を理解し，時間を求める問題では，市や県の正答率を8～10ポイント程下回った。	・日常生活の中で長さや重さなどの大きさを推測，測定する機会を意図的に設けたり，長さや重さの学習では，具体物の操作や体験活動等を多く取り入れ，児童が意欲をもって課題解決に取り組んだりできるように指導する。 ・時間と時刻においては，日常的に時間の感覚を意識するような機会を設定し，定着を図る。
データの活用	平均正答率は，市・県の平均より低い。 ○棒グラフから情報を読み取る問題では，市や県の正答率を上回った。 ●適切な棒グラフから，示された値を読み取る問題では，市や県の正答率を下回った。 ●棒グラフの特徴と利点を理解し，身の回りの事象について活用できるかをみる問題では，市や県の正答率を下回り，無回答率も30%を超えた。	・他教科も含めた学習の中で，身の回りの事象について，児童の興味・関心や問題意識に基づき，表や棒グラフに表す活動などを位置付け，身近なものとして感じられるよう課題の工夫を行う。 ・共通点や相違点を対比したり，伝えたい目的に応じたグラフを選択したり，日常生活と関連付けた課題を設定することで理解を深める。

宇都宮市立海道小学校 第４学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	66.3	72.1	71.0
	「粒子」を柱とする領域	62.5	65.2	63.9
	「生命」を柱とする領域	85.6	82.8	82.4
	「地球」を柱とする領域	50.0	57.7	56.2
観点	知識・技能	72.7	73.8	72.8
	思考・判断・表現	69.6	73.7	72.8



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	平均正答率は，市・県の平均より低い。 ○電気を通すものについて理解しているかどうかみる問題では，市や県の正答率を3ポイント程上回った。 ●風がものを動かすはたらきの変化を読み取る問題や，風の強さと車が動いた距離の関係を問う問題では，市や県の正答率を5～9ポイント程下回った。	・観察や実験を通して実際に体験した学習内容についての正答率が高いことから，基礎的な知識が確実に身に付くよう，今後も実験や観察を通して，結果を吟味したり考察したりする時間を確保し，結論を導き出す学習の流れを定着させる。 ・エネルギーの大きさと引き起こされる事象の関係について，量的・関係的な視点で捉えることができるよう，実験結果を表やグラフに整理したり，動画などの視覚的な資料を活用したりする活動を取り入れ，実感をもって理解できるよう支援していく。
「粒子」を柱とする領域	平均正答率は，市・県の平均より低い。 ○形を変えても重さは変わらないことを理解しているかを問う問題では，95%の児童が正答しており，市・県の正答率を7ポイント程上回った。 ●体積が同じでも種類によって重さが違うことについて，表と関連付けて考える問題では，市・県の正答率を10ポイント以上下回った。	・粒子が保存される以上，重さは形を変えても変化しないことを理解するため，形を変えた紙の重さを計測する活動等，体験活動を十分に取り入れるとともに，粒子の存在や保存に関する初歩的粒子概念に基づくモデルを示しながら指導していく。 ・形を変えても重さは変わらないことは十分理解できているので，表やグラフと関連付けて考えるというような活動を意図的に取り入れていく。
「生命」を柱とする領域	平均正答率は，市・県の平均より高い。 ○虫めがねの使い方や植物の記録カードから植物のめばえについて理解しているかを問う問題では，正答率が市・県の正答率を上回った。 ●植物や昆虫の体のつくりについて理解しているかを問う問題では，市・県の正答率を3～5ポイント程下回っている。	・虫めがね等の実験用具の使い方については，観察や実験の際に児童と毎回確認し，確実な定着を図る。 ・植物や昆虫の体のつくりに代表される，共通性の視点と生物の多様性の視点の両方の視点から，身の回りの生物に関する事象を捉えられるよう，教材を工夫したり意図的な発問を行ったりする。
「地球」を柱とする領域	平均正答率は，市・県の平均より低い。 ●方位磁針の使い方を身に付けているかどうかをみる問題では，市の平均を7ポイント程下回った。 ●太陽が動く方位を理解しているかを問う問題では，市・県の正答率を13ポイント程下回った。	・時間と共に移動する太陽の位置と影の位置の関係や，太陽の高さと影の長さの関係を捉える学習は，空間内の位置関係を捉える力が必要であり，直感的な理解が難しい内容である。そのため，実際の太陽と影の動きを追う実験を丁寧に行うとともに，室内で光源を使い，光源の高さと影の長さの関係を捉える実験を行うなど，体験をもとに理解する学習を取り入れていく。理科室での実験と実際の現象の観察を往還して，理解を深められるようにする。

宇都宮市立海道小学校 第４学年 児童質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

○「家で，計画を立てて勉強をしている。」に肯定的回答は82.1％で8割を超えており，県平均を6ポイント上回った。計画的な家庭学習への取り組みを推奨してきた効果が表れている。また，「学校の授業以外に，ふだん（月～金曜日），１日当たりどれくらいの時間，勉強をしますか（学習塾や家庭教師を含む）。」という質問について「２時間より多く3時間より少ない」と回答した児童の割合が最も多く，学校で推奨している時間より多くの時間家庭学習に取り組んでいることが分かる。今後も，進んで計画的に家庭学習に取り組む指導を続けていく。

○『勉強していて，「不思議だな」「なぜだろう」と感じることがある。」に肯定的回答は89.7％で9割近くになり，県平均を6.7ポイント上回っている。世の中の事象や学習に高い興味・関心をもっていることがうかがえ，日頃から，児童の興味を引くような課題提示や問題提起する学習の成果が表れている。今後も，児童の学びに寄り添った学習を展開していく。

○「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している。」に肯定的回答は82.0％で8割を超え，県平均を3.7ポイント上回った。また，「クラスの友達との間で，話し合う活動を通じて，自分の考えを深めたり，広げたりすることができている。」に肯定的回答は79.5％で8割近くに上っている。これらは，児童同士が話し合う場を多く設定するだけでなく，どんな目的で話し合うのかというポイントを示して話し合い活動を行った成果であると考えられる。今後も，目的に沿った言語活動を取り入れていく。

○「１か月に，何さつくらい本を読みますか（教科書や参考書，まんがや雑誌は除く）。」に１１冊以上と答えた児童の割合が最も多く，県の最多の回答が５～１０冊であることから，読書量が上回っていることが分かる。これは学校図書館司書と連携した様々な取り組みの成果が表れていると考えられ，今後も，朝の読書の時間の確保や図書室の利用の推奨をしていく。

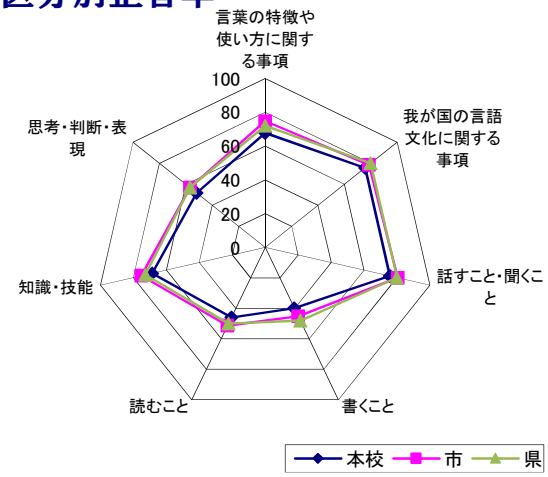
●「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である。」に肯定的回答は41.1％で，県平均の51.8％を大きく下回った。発表の仕方の例示や小グループでの意見交換の場の設定など，自分の考えを伝える場面を意図的に設けていく。

●「自分によいところがあると思う。」という質問では，肯定的回答は69.2％で7割に満たず，県平均の83.7％を大きく下回った。教師による具体的な賞賛の機会を多く心がけるとともに，児童同士で認め合う場を設定したり，自分のよさを振り返る活動を随時取り入れることで，児童の自己肯定感を高める指導をしていく。

宇都宮市立海道小学校 第５学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方に関する事項	67.8	74.8	72.0
	我が国の言語文化に関する事項	75.7	78.6	79.9
	話すこと･聞くこと	75.7	80.4	80.0
	書くこと	39.9	45.1	48.0
	読むこと	46.0	51.3	50.0
観点	知識･技能	68.6	75.2	72.8
	思考･判断･表現	51.9	57.0	57.0



★指導の工夫と改善

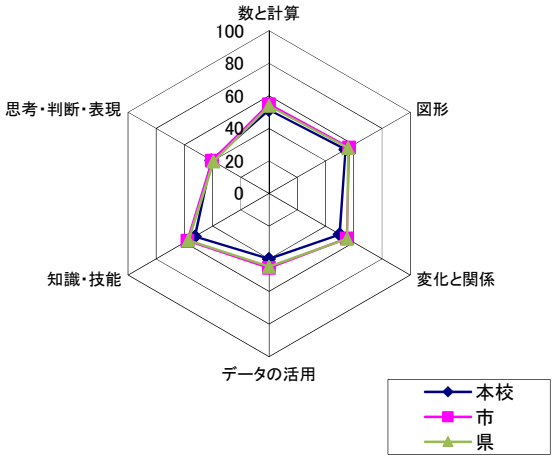
○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	平均正答率は，市･県の平均より低い。 ○熟語の漢字の組み合わせを理解し，熟語の意味を捉える問題の正答率は，市や県の正答率よりやや上回った。 ●漢字を正しく書く問題の正答率は，市や県の正答率より下回った。	･分からない漢字があるときは，必ず調べたり教師に確認して書いたりする習慣付けを図り，既習の漢字を正しく書けるようにする。 ･新出漢字の指導では，熟語やその意味，構成についても確かめ，語彙を増やしたり言葉を正しく使ったりできるように指導する。
情報の扱い方に関する事項	今年度実施なし。	
我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は，市･県の平均より低い。 ●慣用句の意味を理解し，自分の表現に用いる問題は，市や県の正答率より下回った。	･授業や日々の生活の中で，慣用句やことわざに触れる機会を意図的に設定し，言語文化に関心をもてるようにしていく。 ･慣用句やことわざについて調べている児童の自主学習を紹介し，慣用句やことわざに関心をもつ児童が増えるようにしていく。
話すこと・聞くこと	平均正答率は，市･県の平均より低い。 ○話し手が伝えたいことの中心を捉える聴き取り問題は，市や県の正答率よりやや上回った。 ●話の中心を明確にするための話し手の工夫を捉える問題の正答率は，市や県の正答率より9ポイント程下回った。	･話したり聞いたりする活動に慣れさせるため，教科や学級活動で話合い活動の場を計画的に設定する。 ･教師が話をする際，話の要点が何だったか児童に確認するようにし，話の中心を意識して聞く習慣がつくようにする。
書くこと	平均正答率は，市･県の平均より低い。 ●指定された長さで文章を書く問題は，市や県の正答率より7～10ポイント程下回った。	･授業の振り返り時に，正しい文で書いている児童や工夫して書いている児童の例を取り上げてそのよさを説明し，正しい文の書き方への理解を図る。 ･作文や日記の指導を継続的に行い，文章を書く活動に慣れるようにする。 ･指定された条件を満たして書く活動を，各教科の様々な場面で取り入れ，条件に合わせて書く力を育てる。
読むこと	平均正答率は，市･県の平均より低い。 ○叙述を基に文章の内容を捉える問題では，市や県の正答率より5ポイント程上回った。 ●叙述を基に段落相互の関係を捉える問題は，市や県の正答率より12～17ポイント程下回った。	･積極的に学校図書館を利用し，文章を読む機会を多く設ける。 ･文章の構成や段落相互の関係について，考えたり話し合ったりする活動を充実させ，段落相互の関係や文章構成について意識しながら文を読めるようにする。

宇都宮市立海道小学校 第５学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	51.4	54.9	53.7
	図形	54.1	56.6	56.1
	変化と関係	50.0	55.1	55.2
	データの活用	40.0	45.5	44.8
観点	知識・技能	52.6	57.8	57.2
	思考・判断・表現	40.9	40.6	39.5



★指導の工夫と改善

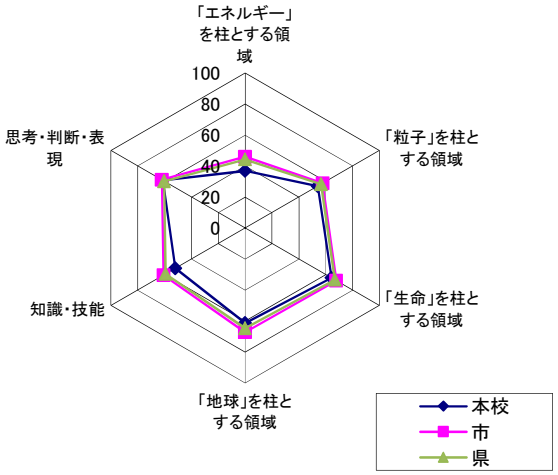
○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は，市・県の平均より低い。 ○大きな数の表し方の理解をみる問題の正答率は，市や県の平均より6ポイント以上上回った。また，四則混合の式の計算の順序の理解をみる問題の正答率は，市や県の平均より13ポイント以上上回った。 ●数直線上の目盛りが示す分数を読み取り仮分数で表す問題の正答率は，市や県の平均より16ポイント以上下回った。また，３けた÷２けた＝２けた（余りあり）の計算の正答率は，市や県の平均より18ポイント以上下回った，無解答率も16.2%と高い。	・今後も計算ドリルやAIドリル，学習プリントを有効活用したり，家庭学習の内容を工夫したりするなどして既習事項の確実な定着を図るとともに，個に応じた指導を充実させ，一人一人に「できた」「わかった」という達成感をもたせていく。 ・算数用語の意味や，計算の基礎・基本について徹底指導するとともに，除法の学習においては，商の見当をつける等計算の基礎力を確実に身に付けさせていく。
図形	平均正答率は，市・県の平均より低い。 ○立体の辺と面の位置関係を理解しているかをみる問題の正答率は，市や県の平均より6ポイント以上上回った。また，180度より大きい角の大きさを求める問題の正答率は，市や県の平均より上回った。 ●いろいろな面積の求め方を理解しているかをみる問題の正答率は，市や県の平均より9ポイント程下回った。また，立体の展開図を理解しているかをみる問題の正答率は，市や県の平均より6ポイント程下回った。	・身の回りの図形に関心をもたせ，日常生活と関連させながら図形についての理解を深め，学習内容の定着に努める。 ・デジタル教科書や実物投影機，一人一台端末などを活用し，図形のかき方の指導をするとともに，様々な図形の性質を視覚的に捉えさせるなどして確実な理解を図る。 ・図形を分割したり補助線を用いたりするなど，多様な方法で面積の求め方について考察することを通して，面積の求め方についての理解を深めていく。
変化と関係	平均正答率は，市・県の平均より低い。 ○割合を使った比べ方について説明する問題の正答率は，市や県の平均より上回った。 ●表を横に見て，伴って変わる２つの数量関係を答える問題の正答率は，市や県の平均より11ポイント以上下回った。また，伴って変わる２つの数量の関係を式に表す問題の正答率は，市や県の平均より9ポイント以上下回った。	・日常生活の場面から，伴って変わる２つの数量の関係を見つけ，数量の関係を表に表したり，表から式に表す活動を取り入れたりすることで，学習内容の定着を図っていく。 ・日頃から表を用いて数量の変化や特徴を考察することで，伴って変わる２つの数量関係についての理解を深めていけるようにする。
データの活用	平均正答率は，市・県の平均より低い。 ○グラフから正しく変化の様子を読み取る問題の正答率は，市や県の平均より上回った。 ●折れ線グラフと棒グラフの複合グラフから正しい傾向を読み取る問題の正答率は，市や県の平均より19ポイント程下回った。また，二次元の表の意味を理解しているかをみる問題の正答率は，市の平均より7ポイント程下回った。	・身の回りの事象から目的に応じてデータを集めて分類整理したり，データの特徴や傾向に着目して適切なグラフを選択して判断したりするなど，その結論を多面的に捉える活動を多く取り入れる。 ・多面的に捉え考察したことを，友達に説明したり，文章に表したりする活動を設定し，根拠をもつことを大切にしていく。

宇都宮市立海道小学校 第５学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	36.9	46.0	44.3
	「粒子」を柱とする領域	54.1	57.7	56.6
	「生命」を柱とする領域	64.3	67.8	66.9
	「地球」を柱とする領域	61.3	67.2	64.6
観点	知識・技能	51.9	60.8	59.2
	思考・判断・表現	61.3	62.1	60.4



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	平均正答率は，市・県の平均より低い。 ●簡易検流計の針のふれる向きが電流の向き，針のふれ具合が電流の大きさを表すことを理解しているかをみる問題では，市や県の正答率より下回った。 ●電流が同じ大きさになる回路を選ぶ問題では，市の正答率より1～6ポイント程下回った。	・理科特有の用語の定着に課題が見られることから，学習中に正しい用語を用いて説明する機会を積極的に設けるだけでなく，ものづくりの場面で用途に合わせてつなぎ方を選択し，活用するなど，用語を使いたい，身につけたいという意欲を高めていく。 ・電流の基礎となる内容の着実な定着を図るため，実験する時間を十分に確保し，回路作りの操作を通して体験的に理解できるような学習を展開する。
「粒子」を柱とする領域	平均正答率は，市・県の平均より低い。 ○実験結果から金属の温度と体積の変化について選ぶ問題では，市や県の正答率より7ポイント程上回った。 ●とじこめた空気の性質を理解しているかに答える問題では，市や県の正答率より15ポイント程度下回った。 ●湯気と水蒸気の違いについて理解しているかをみる問題では，市や県の正答率より15～16ポイント程下回った。	・学習したことが身の回りでも適用されないか確認するような活動を取り入れ，学習したことと生活との結びつきを感じることができるようにしていく。 ・実験を行う際は，「楽しかった。」という思いだけで終わることがないよう，問題の把握や予想・仮説，結果の整理，考察などの学習活動を計画的に設定する。
「生命」を柱とする領域	平均正答率は，県・市の平均より低い。 ○季節ごとの動物の活動について理解しているかを問う問題では，市や県の正答率より10ポイント程度上回った。 ●季節と植物のようすの変化について正しものを選ぶ問題では，市や県の平均より13～14ポイン下回った。 ●骨や関節の名称を答える問題では，市や県の正答率より13～15ポイント程下回った。	・学校の周りの自然林を活用し，学習したことと生活との結び付きを感じることができるようにしていく。 ・一年を通した動植物の様子の変化について，樹木や生物の様子を一人一台端末を使って記録し，比較することで，一人一人が主体的に季節と動植物の関係を捉えられるようにする。
「地球」を柱とする領域	平均正答率は，市・県の平均より低い。 ○星の動きと星座のならび方について正しい文章を選ぶ問題では，市や県の正答率より7ポイント以上上回った。 ●水の流れについて身近な出来事と関連付けて考えているかをみる問題では，市や県の正答率より14ポイント以上下回った。 ●同じ日の正しい月の動き方を理解しているかをみる問題では，市や県の正答率より17ポイント程下回った。	・月や星に関する学習については，学校にいる間は観察できないため，家庭の協力を得ながら，時間をかけて観察し，実際に見た月や星の様子をもとに学習できるようにする。また、意欲を高めたり，理解を深めたりすることができるよう，一人一台端末などのICT機器や視聴覚教材を適切に活用していく。 ・学習の際に日常の場面を想起させることで，学習したことと生活との結び付きを感じることができるようにしていく。

宇都宮市立海道小学校 第５学年 児童質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫　　○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

○「学習して身に付けたことは，しょう来の仕事や生活の中で役に立つと思う。」の肯定的回答は97.4%で，県平均を2ポイント上回った。引き続き，学習内容と日常生活を関連付けたり，実際に経験させたりするなど授業展開を工夫し，児童が将来へ向けて意欲・関心をもって授業に取り組めるように努めていく。

○「しょう来のゆめや目標をもっている。」の肯定的回答は94.8%で，県平均を5.8ポイント上回った。4年生の学習で，将来の夢などについて調べたり，今までの成長について振り返ったりしたことが要因と考えられる。今後もキャリア教育を充実させ，児童が将来へ向けて夢や希望をもてるようにしていく。

○生活習慣に関する質問においては肯定的な回答が多い。また，家の人との関わりについての質問においても肯定的な回答が多い。今後も家庭と連携を取りながら，基本的な生活習慣の定着を図っていく。

●「学校の宿題は，やりたくなる内容だ。」の肯定的回答は44.7%で，県平均を15.1%下回っている。また，「ぎ問や不思議に思うことは，分かるまで調べたい。」や「学習に対して，自分から進んで取り組んでいる。」の肯定的回答も低く，学習に対して前向きになれない様子がうかがえる。今後も継続して授業改善に取り組み，より一層，学ぶ必然性を感じられる授業展開の工夫に努めていく。

●「学校での役わりや係の仕事にせきにんをもって取り組んでいる。」の肯定的回答は92.1%と高いが，「自分はクラスの人の役に立っていると思う。」の肯定的回答は55.2%と低く，県平均からも11ポイント下回っている。今後は責任をもって仕事に取り組んでいる様子を取り上げ，称賛するとともに，児童同士で互いの頑張りを認め合う機会を設け，自己有用感を高めていく。

宇都宮市立海道小学校（第４・５学年共通）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で，重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
学習内容の定着を図るための活動の充実	「海道小学習のきまり」に示された約束を徹底するとともに，既習事項を振り返る場の設定や繰り返し学習の工夫，家庭学習を推奨するなどして定着を図る。	国語の「言葉の特徴や使い方に関する事項」の領域で，４年生は正答率が市・県と比べて上回ったが，５年生は下回った。算数の「数と計算」の領域でも，４年生は上回ったが，５年生は下回った。
対話的な学びを通して，共に高めあえる集団作り	活動形態を工夫することで協働的な学び合いの場を多く設定し，他者の意見や考えに触れ，自分の考えを深めたり広げたりする活動の実現を図る。	児童質問調査の「クラスの友達との間で，話し合う活動を通じて，自分の考えを深めたり，広げたりすることができている。」の肯定的回答で，４年生は県の回答を2ポイント上回り，５年生は10ポイント程度下回った。
児童が自分で成長を実感できる振り返り活動の工夫	単元や内容のまとまりを見通した授業を展開するとともに，めあてに沿った振り返りを充実させることで，児童が自らの成長を実感し，次の学習への意欲をもてる学習の実現を図る。	児童質問調査の「授業の最後に，学習したことを振り返る活動をよく行っている。」の肯定的回答は，４，５年生とも8割を超え，県の肯定的回答を上回った。

★学校全体で，今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
国語の「話すこと・聞くこと」の領域で，4，5年生ともに市・県と比べて正答率が低い。児童質問調査では，「友達と話し合うとき，友達の話や意見を最後まで聞くことができる。」に4，5年生ともに9割以上の児童が肯定的に回答している。一方で，「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である。」に肯定的に回答した児童は，4年生が41.1%，5年生が21.1%と低い。	相手，目的や意図，場面や状況などに応じて，自分の考えを分かりやすく表現する力（聞くこと・話すこと・書くこと）を育成するために，各教科や領域で言語活動の充実を図る。	授業の中で，目的を明確にして聞こうとしたり，相手意識をもち，理由や根拠をはっきりさせて話したりする活動を計画的に取り入れることで，表現力の育成を図る。 また，誰もが安心して話し合いに参加できる教育環境を整えるとともに，一人一台端末を効果的に使い，分かりやすく説明したり，児童の思考や理解を深めたりしていく。